温故知新⑮

710451。1971年社会人として初めてもらった社員番号が不思議に思い出される。やはり私にとっての特別の番号だったのだろうか。3年後には退職者番号になるにもかかわらず。肩書きは機械設計技術者。自動車組み立てラインのコンベアーの設計が主な仕事。自分でなくても誰でも代用がきくことに気づいたのがきっかけで、建築の世界に転向。学校に戻りまた一から勉強のしなおし。そのまま建築の世界に進むはずが、ひょうんなことで興味を持ったランドスケープにはまり込んで今日に至る。

ハーバード大学の大学院で、始めてランドスケープの世界に自分の居場所を発見したような気持ちになったことを思い出す。ピーター・ウォーカーが今のスタイルを確立する前の段階で、ランドスケープの思考や表現など多くのことを教わったが、彼のスタイルに洗脳されずに済んだことは幸いであったと思う。

でも本当のランドスケープとの出会いは、その後の日本庭園の実測であろう。故西沢文隆氏を中心とした「西沢実測チーム」の一員として巻尺で京都の庭を計りまくった至福の時間が、今日の私を支えていると思う。雪の日には雪を掃きつつ、暑い日には麦わら・手ぬぐい・蚊取り線香を駆使しつつ、不思議に雨に降られることもなく、また次の週末に来れることを楽しみにしつつ過ごした時間は、記憶の中に色あせることはない。元来出版の目的で始まった実測であり、西沢氏の死去によりその目的は果たせずに終わったが、西沢実測チームのメンバーの体内では確実に、今なお熟成しつつある。

設計作業は、設計者、クライアント、利用者の三者があって始めて成り立つ。このバランスはいつも微妙である。利用者を置き去りにした設計のなんと多いことか。私が利用者の視点を最も気にかけることと、私が機械設計に居場所を見つけられなかったことが関係すると、今は感じている。高齢者や障害者に気遣ったユニバーサルデザインが大切と思うのも同じ線上での思いであろう。それは世界共通の思いでもあり、色々な国から講演依頼が来ることからも伺い知ることが出来る。シンガポールでもこのことをきっかけとして、色々なプロジェクトにかかわることとなった。

私のパートナーとの思いだけで始めた、病気を持つ子供のためのキャンプ施設を作るプロジェクト「そらぷちキッズキャンプ」<http://www.solaputi.jp/>は、今、思いが本当に形になり動き出そうとしている。故ポール・ニューマン氏が始めたHole In The Wall Campは世界６カ国13施設を数える、病気を持つ子供のためのキャンプである。そして北海道滝川市の「そらぷちキッズキャンプ」も、まもなくその仲間入りを果たそうとしている。ボランティアでの仕事であり、会社を始め多くの人に迷惑をかけるばかりであるが、今後のライフワークの一つとしてゆきたいと思っている。

三宅 祥介　㈱ＳＥＮ環境計画室　取締役会長
ハーバード大学ランドスケープ修士
ＰＯＤinc.（カリフォルニア）勤務
三宅祥介建築設計室を経て
1989年㈱ＳＥＮ環境計画室設立
2008年より現職。東洋大学非常勤講師